

くらしの危険

Number

384

自転車後部に同乗中の 子どもの事故に注意！

-障害物と接触して大腿骨を骨折する事故も-



医療機関ネットワークには、自転車後部に子どもを同乗させて走行していた際の事故情報が2019年度から2023年度までの5年間で、207件寄せられています。身体のはみ出しによる事故の半数は骨折、特に人の骨の中で最も大きい大腿骨を骨折する事故が発生しています。



独立行政法人
国民生活センター

National Consumer Affairs Center of Japan



こんな事故が起きています

【事例1】

車止めのポールを通過する際に子どもの足がポールに接触し、大腿骨を骨折。約1カ月間入院。

(事故発生年月：2022年1月、7歳、男児)

【事例2】

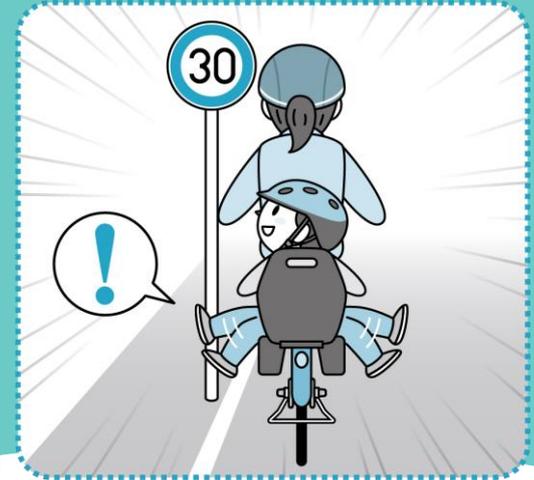
子どもが足をぶらぶらさせていたため、足とガードレールが接触。大腿骨骨折により約3週間入院。

(事故発生年月：2023年11月、4歳、女児)

【事例3】

幼児用座席を使用せず、後ろの荷台に乗っていて、左足が巻き込まれた。アキレス腱露出。約3週間通院。

(事故発生年月：2023年7月、6歳、男児)



🔍 自転車後部に同乗中の子どもの事故を再現したところ…

身体のはみ出しによる事故を再現

走行中に足を伸ばすなどした場合、幼児用座席からはみ出した身体が電柱や標識の支柱に接触することがありました



狭い通路を走行した際の事故の再現

自転車後部の幼児用座席に子どもを乗せた状態で狭い通路を通過すると、子どもの下腿が障害物に接触することがありました



スポーク外傷の再現

幼児用座席を使用せず荷台に子どもを乗せると、子どもの足が車輪に強く巻き込まれる可能性がありました



⚠️ 消費者へのアドバイス

- ✓ 自転車後部の幼児用座席に乗った子どもは、前方の視界がほとんどありません。子どもにシートベルト及びヘルメットを適切に装着させ、身体をはみ出さないよう声掛けをしましょう
- ✓ 狭い通路を走行する際は、同乗させている子どもが障害物と接触しないよう、自転車から降りて押し歩いて通過しましょう
- ✓ 子どもを自転車に同乗させる際は、年齢や身長に合わせて必ず幼児用座席を使用しましょう